

チーム STEPPS 研修の地域包括ケアへの応用 —平成 26 年～28 年度 静岡県立大学「ふじのくに」 未来教育センターCOC 事業を通じて—

田中悠美^{†1} 酒井知子^{†1} 富安真理^{†1}
木下晴美^{†2} 寺井美峰子^{†3} 渡邊貴之^{†4} 東野定律^{†4}

概要：人口 69 万人の A 市では、地域を基盤として医療を安定かつ効率的に統合的ケアとして提供できる仕組み作りが求められている。静岡県立大学では、大学—自治体—地域の連携による在宅医療・介護のリーダー人材育成支援プログラムを開発し、チームとしてのパフォーマンス向上を目的としたチーム STEPPS 研修を市内の日常生活圏域において地域包括ケアに携わる医療・介護の専門職者を対象に実施した。これに並行し、チーム STEPPS 研修に活用する教材の開発をすすめ、平成 27 年度には冊子教材、平成 28 年度は動画教材作成に着手した。さらに平成 28 年度には、医療・介護の専門職者を対象とした量的調査を実施し、チーム STEPPS 研修受講者における研修効果、地域包括ケアに携わる専門職の地域連携活動の実態を把握した。これら一連の取り組みについて報告する。

キーワード：地域包括ケア，多職種連携，チーム STEPPS 研修，研修プログラム開発

Practical application of Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety (Team STEPPS) training in community-based integrated care : Through the University of Shizuoka “Fuji-No-Kuni” Center for Future Education and Center of Community (COC) initiative (FY2014-2016)

YUMI TANAKA^{†1} TOMOKO SAKAI^{†1} MARI TOMIYASU^{†1}
HARUMI KINOSITA^{†2} MINEKO TERAII^{†3}
TAKAYUKI WATANABE^{†4} SADANORI HIGASHINO^{†4}

Abstract City A with a population of 690,000 needs to develop a system of community-based healthcare that provides stable and efficient comprehensive care. In collaboration with universities, local governments, and communities, the University of Shizuoka developed a leadership development and support program for personnel working in home-based medical and nursing care. To enhance team performance, a Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety (Team STEPPS) training was conducted for medical and nursing care professionals that are involved in community-based integrated care within their spheres of daily life in the city. Concurrently, educational materials to be used for the Team STEPPS training were also developed. The development of an educational booklet and an educational video started in FY2015 and FY2016, respectively. Furthermore, a quantitative survey targeting medical and nursing care professionals was conducted in FY2016 to determine the training effect among participants of the Team STEPPS training and to understand the current level of collaborative activities in the community among professionals involved in providing community-based integrated care. This document reports on these initiatives.

Keywords: Community-based integrated care, interprofessional collaboration, Team STEPPS training, training program development

1. はじめに

わが国では、超高齢化社会に対応し、住民が住み慣れた地域でできるだけ最後まで生活できることを実現するため、医療、介護、予防や多様な生活支援を含む地域での包括的な支援・サービスの提供体制である地域包括ケアシステム

の構築が推進されている。これは、市町村や都道府県が地域報自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げることが求められている。医療や介護、生活支援サービスというような地域における資源の状況は、市町村ごとに異なり、中西 1 の調査によると、人口規模が小さい市区町村では、病院などの医療機関や社会資源が限られ、「地域住

^{†1} 静岡県立大学看護学部
School of Nursing, University of Shizuoka

^{†2} 静岡市
City of Shizuoka

^{†3} 名古屋大学医学部附属病院
Nagoya University Hospital

^{†4} 静岡県立大学経営情報学部
School of Management and Information, University of Shizuoka

民のニーズと比べて、地域内に利用可能なサービスや事業所が少ない」現状にある。これに対し、人口規模が大きい市町村では「地域ネットワークが種々様々にあり、市町全体としての状況把握が難しい」「介護保険以外の領域の機関や組織・団体と地域包括ケアに関する意識の共有ができない」等、地域包括ケアの実践における課題があると報告されている。人口 69 万人の A 市においても、その人口規模の大きさから同様の課題を抱えており、地域を基盤とした医療を安定かつ効率的に統合的ケアとして提供できる仕組みづくりが求められ、それを支える地域での医療・介護のリーダーの育成が急がれている。

2. 課題への取り組み

静岡県立大学「ふじのくに」未来教育センターCOC 健康づくり人材育成事業においては、大学—自治体—地域の連携による、多職種連携・多分野協働の仕組みを動かすリーダー人材の育成支援に取り組んでいる。平成 26 年度には、研修ファシリテーター育成を目的として、ワシントン大学で開催された TeamSTEPS[®] Master Trainer Course を静岡県立大学教員 6 名が受講した。平成 27 年度および 28 年度には、A 市内の日常生活圏域で地域包括ケアに携わる医療・介護の専門職者を対象にチームとしてのパフォーマンス向上を目的としたチーム STEPPS 研修を実施した。また、これに並行し、研修に活用する教材の開発をすすめ、平成 27 年度には冊子教材、平成 28 年度には動画教材作成に着手した。さらに平成 28 年度には、医療・介護の専門職者を対象とした量的調査を実施し、チーム STEPPS 研修受講者における研修効果、地域包括ケアに携わる専門職者の地域連携活動の実態を把握した。

2.1 チーム STEPPS とは

チーム STEPPS とは、医療分野での患者安全におけるチームワーク習得に着目した代表的プログラムであり、米国医療研究品質局により開発された。エビデンスに基づいたチームワークを効果的に実践するためのトレーニングであり、ガイドである 2. 医療場面における患者へのサービス提供において、これにかかわる組織間の分断を減らし、サービスの継続性や調整を高める Integrated Care 提供のためのプログラムである。

チーム STEPPS には、5 つの基本原則がある。チーム体制があるということ、そして、コミュニケーション、リーダーシップ、状況モニター、相互支援という 4 つのコンピテンシーである (図 1)。図 1 における矢印は、4 つのコンピテンシーとチームに関連するアウトカムの間における双方向のダイナミックな相互作用を示し、4 つのコンピテンシーを囲む輪は、患者ケアチームのチーム体制である。この体制には、直接ケアを提供する専門職だけでなく、患者やケア提供体制の中で支援的な役割をする人々を含む。チ

ームとしての機能を発揮するには、チームメンバーがこれらの能力を行動で発揮し、チームメンバー間の相互作用となることが求められる。

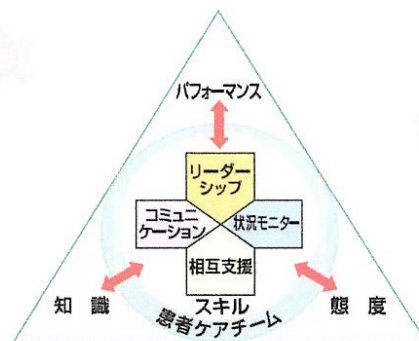


図 1 チーム STEPPS の枠組みと 4 つのコンピテンシー

表 1 チーム STEPPS の基本原理と
パフォーマンス観察ツール

基本原理	パフォーマンス観察ツール
チーム体制	<ul style="list-style-type: none"> ・チームを結成する ・チームメンバーの役割と責任を割り当てる、または確認する ・責任感のあるチームを維持する ・患者と家族をチームに含める
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・簡潔・明確・具体的に適時の情報を提供する ・入手できるすべての情報源から情報収集する ・伝達された情報をチェックバックによって検証する ・SBAR, コールアウト, チェックバック, ハンドオフを活用して効果的にチームメンバーとコミュニケーションする
リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの目標とビジョンを特定する ・チームのパフォーマンスを最大限にするために資源を効率的に活用する ・チーム内で業務量のバランスをとる ・適切ならば、業務や役割を委任する ・ブリーフ, ハドル, でブリーフを行う ・チームワーク行動のロールモデルを示す
状況モニター	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の状況をモニターする ・チームメンバーをモニターし、安全を確実にしエラーを回避する ・安全と活用できる資源 (機器など) の有無について環境をモニターする ・目標への進捗をモニターし、ケア計画の変更を要する変化を同定する ・メンタルモデルの共有を確実にするためにコミュニケーションを促進する
相互支援	<ul style="list-style-type: none"> ・業務に関連した支援補助を提供する ・適時で建設的なフィードバックをメンバーに提供する ・アサーティブな主張, 2 回チャレンジルール, または CUS を活用し、効果的に患者のために主張する ・対立を解決するために 2 回チャレンジルールや DESC スクリプトを活用する

チーム STEPPS では、5 つ基本原則にあたるチームメンバーの行動を、パフォーマンス観察ツールとして提示している (表 1)。さらに 4 つのコンピテンシーについては、これを発揮するための言葉や行動を実践的ツールとして示している。それは職種や文化、立場を超えた共通言語的な役割となるものであり、誰もが気になったら声に出して発信する、あるメンバーが発信したらそれに応えるという、一

見当たり前の行動をあえて多職種でトレーニングしながら現場に落とし込み、それを組織の文化にしていくプログラムである3。

2.2 静岡県立大学「ふじのくに」未来教育センターCOC健康づくり人材育成事業の活動

2.2.1 チーム STEPPS 研修実施

A 市内の4つの日常生活圏域で地域包括ケアに携わる、医療・介護の専門職者を対象に平成27年度および28年度に2回実施した。

● 平成27年度

実施日：平成28年2月11日（木）

プログラム内容：対象の2圏域における地域包括支援センターの実践報告と意見交換、チーム STEPPS に関する講義、ビデオ視聴、演習等であった。プログラム評価のため、研修終了時に参加者全員を対象に自記式質問紙調査を実施した。

結果：参加者は73人（ケアマネジャー33人、医療職者20人、大学教員13人、大学生7人）であった。自記式質問紙は62人から回収した（回収率84.9%）。設問「今回の研修は業務棟で役に立つと思う」について、「とても思う」30人（48.4%）、「思う」29名（40.3%）であった。教育機関が主催する地域包括ケアの質向上をチームトレーニングから行う本プログラムは、参加者から実践でのチームワーク形成に活用できる内容との肯定的評価を得ることができた。

● 平成28年度

実施日：平成29年2月11日（土）

プログラム内容：前半は対象の2圏域における地域包括支援センターの実践報告と意見交換を行った。後半にはチーム STEPPS の講義・演習を行った。ファシリテーターを寺井美峰子（名古屋大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部）が担当し、講義部分では冊子教材を活用した。プログラム評価のため、研修終了時には参加者全員を対象に自記式質問紙調査を実施した。

結果：参加者は41人であった。その内訳は、ケアマネジャー16人、看護師8人、社会福祉士4人、薬剤師3人、理学療法士2人、大学生2人、その他6人（医師、歯科医師、保健師、相談員、地域ボランティア、大学教員）であった。自記式質問紙は36人から回収した（回収率87.8%）。チーム STEPPS のコミュニケーションのスキルについて、「チームケアのコミュニケーションに役立てたい」「スキルを活用して、わかりやすく相手に伝達できるようにしたい」という意見があげられ、冊子教材については「わかりやすい」「理解できた」という肯定的な評価を得た。その一方で、「専門用語が多くわからないことがあった」という意見もあり、一度の研修機会では知識習得に限界があり、再学習機会の必要性が考えられ、これを支援する新たな教材開発の検討課題となった。

2.2.2 教材開発

平成27年度には、チーム STEPPS の枠組み、4つのコンピテンシー、コミュニケーションスキルの活用を解説する冊子教材「ポケットガイド チーム STEPPS 2.0 チームとしてのより良いパフォーマンスと患者安全を高めるための戦略とツール」を配布した。この教材は、主に平成28年度に実施したチーム STEPPS 研修において活用し、肯定的な評価を得ることができた。一方で、チーム STEPPS のコミュニケーションスキルの習得には、繰り返しの学習機会を設定する必要性が考えられた。特に、地域包括ケアの実践にあたる医療・介護の専門職者は、退院前カンファレンスや介護保険によるサービス担当者会議、地域包括ケア会議等、教育背景の異なるチームメンバーとコミュニケーションをとる機会が多い。教育背景の異なる職種から構成されるチームでは、共通のコミュニケーションスキルを習得することがチームパフォーマンスを向上させると考えられる。この経過から、平成28年度は動画教材の作成に着手した。動画教材は、音声と画像の2つの情報が同時に得られ、現実の状況が想起しやすいという特性がある。動画教材を使った学習経験者の満足度は86.4%と非常に高く、動画教材のわかりやすさや学習効果は評価を得ている4。内容として、地域包括ケア実践者が日常的に経験する多職種間でのコミュニケーション場面におけるチーム STEPPS のコミュニケーションスキルの活用を病院における退院支援の場面を用いて具体的に示すこととした。

2.2.3 医療・介護の専門職を対象とした地域連携活動の実態調査

● 目的

A市において開催されたチーム STEPPS を活用した研修受講者の研修効果、および地域包括ケアに関わる専門職の地域連携活動の実態を把握することを目的とした。

● 方法

平成29年3月12日に開催されたA市における多職種連携研修会に参加を表明した保健・医療・福祉施設や事業所等に勤務する地域包括ケア実践者（医師、歯科医師、看護師、保健師、ケアマネジャー、リハビリ専門職、介護職等）200名を調査対象とした。調査内容は、対象者の性別、年齢、職種、勤続年数、平成28年度多職種連携研修受講回数、チーム STEPPS 研修会受講の有無等の基本属性、対象者の地域連携活動の測定として、筒井5,6による「連携活動評価尺度」を用いて構成した。研修会当日、調査対象者に自記式質問紙調査票を配布し、調査票の回収は、各自封筒に厳封し、返信用封筒を用いて、直接研究代表者に郵送とした。

● データ分析方法

IBM SPSS Statistics ver.25を使用し、各項目の記述統計分析、およびチーム STEPPS 研修会受講の有無別に地域連携尺度の評価得点の差を比較した。

● 結果

調査票の回収は 66 人（回収率 33.0%）からあり、59 人（有効回答率 29.5%）を分析対象とした。

対象者の基本属性について、年齢は平均 46.5 ± 8.9 歳、職種は看護師 27 人（45.8%）が最も奥、続いてケアマネジャー 11 人（18.6%）、ソーシャルワーカー 7 人（11.9%）の順に多かった。勤続年数は、平均 7.0 ± 5.9 年であった。平成 28 年度の多職種連携研修会の受講回数は、平均 6.5 ± 5.9 回であった。チーム STEPPS 研修会の受講は、有 15 人（25.4%）無 44 人（74.6%）であった。チーム STEPPS 研修の受講の有無において、地域活動評価尺度の有意な差はなかった。

3. 今後の課題

本事業では A 市の地域包括ケアに携わる専門職者を対象とし、チーム STEPPS を活用した研修を取り入れた人材育成支援を行った。地域包括支援ネットワークにおけるチームパフォーマンス向上を後押しするため、今後は動画教材を取り入れた研修を実施し、受講による効果を確認する。

謝辞 平成 27 年～28 年度静岡県立大学「ふじのくに」未来教育センターCOC 事業にご協力頂いた皆様に、謹んで感謝の意を表する。

参考文献

- 1 中西三春, 地域包括ケアに関する指標の検討—地域包括支援ネットワークの構成と機能と把握と地域包括ケアの課題に関する調査—報告書. 一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構. 2013, p.58.
- 2 種田憲一郎, 実践レポート チーム STEPPS の導入と実践 チーム STEPPS の適切な理解と実践のために. 病院安全教育. 2015, p.28-35.
- 3 永井智恵美, 地域包括ケアシステムという新たな文化の構築に向けて—地域というチームの多主体・多職種連携に生かすチーム STEPPS. 看護部長通信. 14(1), 2016, p85-93.
- 4 e-ラーニング戦略研究所, 動画教材の利用に関する意識調査と動画教材の学習効果検証報告書. 株式会社デジタル・ナレッジ. 2013, p.8.
- 5 筒井孝子, 地域福祉権利擁護事業に携わる「専門員」の連携活動の実態と「連携活動評価尺度」の開発（上）. 社会保険旬報, 2003, p18-24.
- 6 筒井孝子, 地域福祉権利擁護事業に携わる「専門員」の連携活動の実態と「連携活動評価尺度」の開発（下）. 社会保険旬報, 2003, p24-28.